

2014 年度 プログラミング I レポート 12

学生用

学籍番号： _____

氏名： _____

下記の注意事項を守り、次ページ以降の問いに答え、レポートを完成させなさい。

提出期限： 2014 年 7 月 8 日 (火) 13:00 まで

提出場所： 理学部棟 正面玄関内に設置のレポートボックス

注意事項：

- (1) このページを印刷し、必要事項を記入の上 (学籍番号欄と氏名欄は 2 箇所あるので忘れずに記入すること)、レポートの表紙として提出すること。
- (2) コンピュータ端末室を利用する場合は、情報システム利用ガイドラインを厳守すること。特に、コンピュータ端末室では飲食禁止である。
- (3) クラスメイトのレポートを参考にしたり、クラスメイトと協力してレポートを作成した場合は、教員控の協力者氏名欄にクラスメイトの氏名を記入すること。これらの場合も、自分の言葉で表現し直すこと。コピー禁止。
- (4) プログラミング I について、あなたの声を聞かせてください (教員控の意見・質問欄に記入のこと)。気軽にどうぞ (成績には一切影響しません)。

出題者： 幸山 直人

出題日： 2014 年 7 月 2 日 (水)

----- 切り取り線 -----

2014 年度 プログラミング I レポート 12

教員控

学籍番号： _____

氏名： _____

協力者氏名： _____ , _____ , _____

レポート作成に要した時間： _____ . _____ 時間

意見・質問：

問 1 真値 $\alpha (\neq 0)$, $\beta (\neq 0)$ に対して、それぞれ、近似値を a, b 、絶対誤差を $\varepsilon_A(a), \varepsilon_A(b)$ 、相対誤差を $\varepsilon_R(a), \varepsilon_R(b)$ とするとき、積 $a \times b$ の相対誤差が $\varepsilon_R(a \times b) = \varepsilon_R(a) + \varepsilon_R(b)$ によって与えられることを示しなさい。ただし、相対誤差 $\varepsilon_R(a), \varepsilon_R(b)$ はそれぞれ十分小さいものとする。

解答例 絶対誤差の定義より、近似値 $a \times b$ は

$$\begin{aligned} a \times b &= \alpha \times \beta + \varepsilon_A(a \times b) \\ &= (\alpha \times \beta) \left(1 + \frac{\varepsilon_A(a \times b)}{\alpha \times \beta} \right) \\ &= (\alpha \times \beta) (1 + \varepsilon_R(a \times b)) \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

と表される。一方、絶対誤差の定義より $a = \alpha + \varepsilon_A(a)$, $b = \beta + \varepsilon_A(b)$ だから、近似値 $a \times b$ を具体的に計算すると

$$\begin{aligned} a \times b &= (\alpha + \varepsilon_A(a)) \cdot (\beta + \varepsilon_A(b)) \\ &= \alpha \left(1 + \frac{\varepsilon_A(a)}{\alpha} \right) \cdot \beta \left(1 + \frac{\varepsilon_A(b)}{\beta} \right) \\ &= (\alpha \times \beta) (1 + \varepsilon_R(a)) (1 + \varepsilon_R(b)) \\ &= (\alpha \times \beta) (1 + \varepsilon_R(a) + \varepsilon_R(b) + \varepsilon_R(a) \cdot \varepsilon_R(b)) \\ &\doteq (\alpha \times \beta) (1 + \varepsilon_R(a) + \varepsilon_R(b) + 0) \quad (\because \varepsilon_R(a), \varepsilon_R(b) \text{ が十分小さいため}) \\ &= (\alpha \times \beta) (1 + \varepsilon_R(a) + \varepsilon_R(b)) \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

となる。したがって、①式と②式を比較すれば、積の相対誤差は

$$\varepsilon_R(a \times b) = \varepsilon_R(a) + \varepsilon_R(b)$$

によって与えられる。

注意：相対誤差 $\varepsilon_R(a) = \frac{\varepsilon_A(a)}{\alpha}$, $\varepsilon_R(b) = \frac{\varepsilon_A(b)}{\beta}$ がそれぞれ十分小さいとき

$$\varepsilon_R(a) \cdot \varepsilon_R(b) = \frac{\varepsilon_A(a)}{\alpha} \cdot \frac{\varepsilon_A(b)}{\beta}$$

は非常に小さくなるため、無視できる。

考察：商 $a \div b$ の相対誤差が $\varepsilon_R(a \div b) = \varepsilon_R(a) - \varepsilon_R(b)$ によって与えられることを示しなさい。

問 2 以下の文章はオペレーティングシステム (OS) について述べたものである。空欄に適切な語句を入れ文章を完成しなさい。

(1) オペレーティングシステムは、人間がコンピュータを効率的良く利用するためのソフトウェア群で、ハードウェア資源の有効活用・コンピュータ操作と運用の支援・信頼性と安全性の確保などの目的を実現する。そのため、オペレーティングシステムは **基本ソフトウェア** とも呼ばれる。

(2) 狭義のオペレーティングシステムは、オペレーティングシステムの中心となる本体プログラムである **カーネル (Kernel; 制御プログラム)** を差し、ジョブ管理・タスク管理・データ管理・記憶管理・通信管理などを行う。さらに、ユーティリティ (サービスプログラム)・言語プロセッサ・ミドルウェアなど含めたプログラム群を広義のオペレーティングシステムと呼ぶ。

(3) 現在利用されているモダンなオペレーティングシステムの主な特徴は、タイムシェアリングシステム (TSS; 時分割システム) と仮想記憶方式で、これらはケン・トンプソンとデニス・リッチーによって開発された UNIX の影響を多分に受けている。特に、タイムシェアリングシステムは **マルチユーザ** と **マルチタスク** を実現し、複数の人が複数の仕事を平行して進行することが可能となった。また、デバイスドライバ (ハードウェアに対して) やライブラリーモジュール (ソフトウェアに対して) により、非常に汎用性の高いコンピュータとなっている。

(4) オペレーティングシステムが提供するユーザインタフェースには、マウスなどを使って人間が直感的にコンピュータを操作できる **グラフィカルユーザインタフェース (GUI)** とコマンド (文字列) を入力してコンピュータを操作するキャラクタユーザインタフェース (CUI) がある。現在は、前者のおかげで誰もが容易にコンピュータを扱うことができる。